

## 「体験」を乗り越えて

松江市立東出雲中学校 2年 石原飛佳

「おまえ嫌いや」「来るな」

僕は小学校四年生のころ、そんな言葉を言われたことがあります。なぜ、そんなことを言われるのか、理由はよくわかりませんでした。背が小さいから「チビ」といわれ、注意したら無視されたり「チビ、チビ」とより言ってきたりしました。僕に向かう言葉はますますエスカレートし、「Shut UP」や「消えろ」など、言葉の暴力はひどくなるばかりでした。その体験を思い出すこともつらいのですが、当時は、とにかく、悲しかったということだけ覚えています。これ以上いやな思いをするなら、自分からは何も言わずに聞かなかったことにしようと、耳をふさぐこともありました。

しかし、僕がもっともいやだったことは、言葉の暴力でなく「差別＝排除＝仲間外し」されたことでした。「どうしたん？」「あのさー、昨日ね～」何気ない日常の会話ですが僕が何を言っても無視され、いっしょにいることを拒否されました。僕は孤独でした。心がボロボロになったような毎日だったことを覚えています。

残念なことですが、差別は多々あることだと思います。たとえば、力の差が大きいとき、強いものが弱いものをのけ者にする、言われたことをしなかったり、はむかおうとしたりしたとき、仲間外しが起こります。言葉の暴力も排除も同じです。決して許されるものではありません。差別やいじめが人の命を奪うこともあるからです。

僕たちの学校では一学期に「命の大切さを学ぶ教室」がありました。交通事故で娘さんをなくされた方の話でした。その時、自ら命を絶つ子供たちの話もされました。命は自分一人のものではなく、多くの人の命がつながったもの、親や友人の思いをつなぐもの…という話でした。僕はこの話を聞いて差別やいじめによって、もし人の命が絶たれるとするとこんな悲惨なことはいないし、残された人はどうして、自分を頼ってくれなかったとか、何とかならなかったのかと、自らせめてしまうだろうと思いました。

こんなことにならないため、差別から逃げればいいのかという意見を聞くことがあります。すなわち、いわれた人、つまり僕のような立場の者がもっと心が強くなればいいのか。いわれる人、差別された人が気にするからなくならないという考え方は、この考え方は正しいのでしょうか？僕は間違っていると断言できます。黙っていれば、暴言はなくなるのでしょうか？気にしなければ無視はなくなるのでしょうか？そんなことはありません。しかも差別に対して慣れるなんてことはないし、あってはいけません。差別される側の問題ではなく、差別する側が人間として変わるべきだと思います。

人はやってしまった過去を変えることができません。だから今を変えることが必

要です。自分自身の行為を振り返って、人を傷つけたりしたかもしれないと思うことを意識し、反省すること、その積み重ねこそが、小さいけれど最善なことではないかと思います。僕は自分が受けた体験から、差別する側が変わることが一番大切なことだということを強く思っています。しかし、僕が、この考えに達するには、長い時間が必要でした。自分の気持ちを振り立てる勇気も必要でした。自分が、あの体験を乗り越えられたのは、家族や友人がいたからでした。困ったときや苦しかった時、相談する人がいたからです。僕は、人から無視されたけれど、僕の気持ちを理解してくれた人＝友だちもいました。家族も、僕の気持ちを受け止めてくれる大きな支えとなりました。「命の大切さを学ぶ教室」で、人と人はつながっているという話を聞きましたが今、あの頃のことを思い出すと、本当に家族や友だちがいてよかったと思います。また自分自身の人との接し方についても振り返ってみました。自分の言葉の選び方や人との接し方はどうだっただろうと考えた時、自分も少し成長できたように思えます。

あれから四年くらいの月日が経ちました。今、僕は、中学生ですが、自分で目標をもって、学校生活も、部活動も勉強も頑張っています。あの時の体験は、つらく苦しいものでした。もちろん、そのことを多くの人に知ってもらいたいと思っています。しかし、一方で、あの時を乗り越えられた自分があったから、今の自分があるということ、支えてくれた家族や友だちに素直に感謝できる自分になれたことは間違いありません。

これから先、いろいろな人と出会い、いろいろなことがあるかもしれません。しかし、人と人とのより良い関係を大切にしながら生きていきたいと思っています。そして、つながる命を大切に、差別やいじめがなくなるように、自分から働きかける人になりたいと思います。